

## ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	服部 孝也
主な担当科目	実技個人レッスン[器楽Ⅰ①,器楽Ⅰ②,器楽Ⅰ③,器楽実技Ⅰ①,器楽実技Ⅰ②,器楽実技Ⅰ④,器楽実技Ⅱ①,器楽実技Ⅱ②,器楽実技Ⅱ③,器楽実技Ⅱ④]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	昨年度からの引き続きではあるが、学生一人ひとりが満足いく生き活きとした学生生活を送るためにはどのようにしたらよいか、またそれぞれの能力に沿った活躍の場を適切に与えることにより、自信を持って持続的に学んでいくことが出来る環境を作っていくことを目標としてきた。
2022年の教育に関する自己評価	学生ひとりひとりが少しずつではあるが自信をもって学生生活を送れているように見受けられた。その反面、より期待を求めているために、やや苦しみ場面に出くわすこともあったように思う。バランスを保ちながら良い環境を作っていくことが今後必要と感じた。
2022年のFD活動に関する自己評価	コロナにより思った以上にいろいろなことに影響が及んでいる。依然続くコロナと共にどのような取り組みが可能なのか、また様々な背景を持つ学生がそれぞれ持続的に学べるよう心がけてきた。早く安心して過ごせる世の中になることを願いたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	学生それぞれに適した活躍の場を与えることにより、より多くの経験と成功体験により自信をもって学んでいけるような環境作りが出来るよう心掛けた。オンラインを上手く活用することで情報収集が増し、より豊かに学ぶことも出来る。

科目名－クラス名

**器楽 I ①****曜日時限**

実技

**担当教員**

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ①****曜日時限**

実技

**担当教員**

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
- 第3回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
- 第4回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
- 第5回 各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
- 第6回 教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
- 第7回 個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
- 第8回 音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
- 第9回 音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
- 第10回 楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
- 第11回 演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
- 第12回 音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ①****曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ①**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
- 第3回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
- 第4回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
- 第5回 各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
- 第6回 教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
- 第7回 個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
- 第8回 音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
- 第9回 音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
- 第10回 楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
- 第11回 演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
- 第12回 音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。



■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ①**

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	1～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100

**教育到達目標と概要**

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

**学修成果**

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

**授業展開と内容**

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
- 第3回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
- 第4回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
- 第5回 各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
- 第6回 教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
- 第7回 個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
- 第8回 音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
- 第9回 音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
- 第10回 楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
- 第11回 演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
- 第12回 音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

**履修上の注意**

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽Ⅰ②

## 曜日時限

実技

## 担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

## 学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

## 履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

## 学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験課題曲の最終仕上げ

## 履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

## 学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

## 履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。



■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ③**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

**器楽 I ③**

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅰ①

## 曜日時限

実技

## 担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅰ①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	1～	通年	6	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について



履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅰ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	4～	通年	6	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅰ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	4～	通年	6	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	100	0	0	0	0

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースの実技レッスンである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ



履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	1～	通年	3	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合						

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ①」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

■履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

■授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

■教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	3	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ①」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。アーティストとしての能力を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	2～	通年	3	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ②」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	2～	通年	3	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ②」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について



履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	3	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	3	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ④

## 曜日時限

実技

## 担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表					
実技・実習	4～	通年	3	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ④」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

## 器楽実技Ⅱ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	4～	通年	3	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ④」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

## 学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。これまでの学修で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験曲の最終仕上げと、4年間のまとめ



履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

---

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2409 教員名：服部 孝也

### 1) 評価結果に対する所見

全体と比べ、平均を下回っている項目がある。  
予習復習をしにくい内容となっているため、平均下回っていることも考えられる。

### 2) 要望への対応・改善方策

この授業に満足していないとの意見もありました。学生が求めているものに寄り添えるよう今後より良い内容を提供したいと思う。

### 3) 今後の課題

学生が学びたいことはどんなことなのか、それに寄り添えるよう、より質の高い内容の授業を提供したい。

以 上